

春風秋霜

3月号

令和4年3月1日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 令和3年度終了に向けて

本年度も新型コロナウイルス感染症の繰り返される大波のため、教育活動は大きな影響を受けてしまいました。行事の変更や感染対策など、学校は様々な対応に苦慮し、大きなストレスや負担を感じた方も多いと思います。そのような中で、皆様方の努力によりここまでくることができたと、心から感謝申し上げます。

もう少しで年度末を迎えますが、年度末は卒業式や修了式といった子供たちにとって大きな節目となる時期です。また、大きな希望をもって新しい学年や未来に歩み出す準備をする時期でもあります。そのため、子供たちには残された日々を充実感のある学校生活にしてやりたいと思います。よろしくお願いいたします。

2 睡眠指導について

日本教育新聞に日本眠育推進協議会理事長の三池輝久氏の「規則正しい睡眠で不登校防止」という記事がありました。小学生の睡眠習慣を改善したことにより、中学校の不登校を無くしたそうです。

最近の子供は、ゲームやスマホにより夜型の生活をする事が多くなっています。そのため、時間限定の時差ボケのような状態になり、不登校につながる子供もいるそうです。また、この記事では、睡眠不足を解消するために朝遅くまで寝ていることも良くないと指摘しています。子供では1時間半、大人でも2時間以上の寝坊は脳に良くないそうです。生活リズムが狂ってしまうからでしょう。

睡眠不足を解消するには、通常より早く寝て、定時に起きるようにすることが大切だそうです。つい、「休日はゆっくり寝ていよう」と思うのは世の常ですが、休日明けの生活には良くないと知っておくべきでしょう。『教育委員会の提言』を活用して指導願います。

3 令和3年度末人事について

3月は人事異動の時期です。毎年のことながら、県内・静西管内・志太地区内・島田市内の状況により、希望の如何にかかわらず異動をお願いすることがありますので、ご理解をお願いします。

異動すると様々な変化に対応しなくてはなりません。異動先の学校には、その学校の伝統や文化があるからです。しかし、子供を中心に考えるということは変わりません。また、島田市が大切にしてきた「個に焦点を当てた授業」や「夢育・地育」の方向は正しいと思っています。これまでの勤務校で培ったものを、異動先の学校でも発揮することを願っています。

私も、校種変更や身分切り替えを伴う異動を経験してきました。その度に苦労することもあり、時には転職したかのように思うこともありました。しかし、与えられた場所(学校や分掌)で全力を尽くしたことで、結果として自分の新しい一面が伸びたり、人的ネットワークが広がったりしたと思います。異動をスキルアップに繋げるよう皆さんの活躍を期待しています。

4 今後のライフプランについて

今年度退職する教職員の皆さんの中には、再任用を希望している方も多いと思います。また、これから、数年で退職を予定している方もいると思います。私は、二中の校長時代、職員に今後の10年間の人生設計を持つように話していました。定年に近い方は、定年後の生活を意識し、若い方は今後のキャリアをどのように積み重ねるかを考え、計画的な異動をして欲しかったからです。皆さんもぜひ10年後の自分をイメージし、今後の生き方をどのようにするか考えて欲しいと思います。転機が迫ってから考えるのでは遅いと思います。

10年間のライフプランを考える時、教職以外のことも考えて欲しいと思います。家庭生活の充実や社会貢献などもその一つです。人生100年時代です。退職後の数十年の生活をどのようにするかは、今から考えることが大切です。

私は、近年、レンゲ草の栽培をし、小学生や近所の幼児に楽しんでもらっています。子供たちがレンゲ畑で遊ぶ中で、草の匂いや蜜の甘さを感じ取ったり、草に埋もれて寝そべる快感を味わったりして欲しいと願ったからです。

また、隣組の子供たちにサツマイモや果物の収穫体験も提供しています。これまで、教育に関わる中で、学校でできないことを地域で提供できたらいいなと思ったからです。大きなことはできなくても、小さな恩返しができたらと思っています。皆さんにも自分のできる地域貢献を考えていただけたらと思っています。

肘かけ椅子

小林 知子 社会教育課長

「地域学校協働本部」

令和2年度から市内の全小中学校で学校運営協議会（コミュニティスクール）が設置されたことに合わせて、社会教育課では中学校単位で「地域学校協働本部事業」をスタートさせました。「本部」と聞くときちんとした組織のように感じられるかもしれませんが、この本部は地域学校協働活動推進員（通称：コーディネーター）が中心となって、地域の住民・団体や保護者と学校とをつなぐ「緩やかなネットワーク」となっています。「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域全体で子供たちの学びや成長を支える活動を行っており、令和2・3年度はそれぞれの地域に応じた特色ある活動が展開されています。

令和3年度は、市内で10人のコーディネーターが活動を行いました。その全ての学校に伺って、校長先生や教頭先生、コーディネーターの方から、活動の状況や課題などについてお聞きしました。それぞれの学校で、アイデア満載の活動が行われていて、私達は「えっ、そんなことまでできちゃうんだ…」と、とても驚かされました。職業体験や授業への協力者探しから、学校花壇の整備、夏休みを利用した学習支援の運営、その他Googleフォームを使って保護者や地域の方のボランティアを募集したりなども…。先生方からは、「職員は人事異動もあって地域のことに詳しくなく、地域との連携に困ることがあったが、コーディネーターの存在でそれがスムーズにできるようになってとても助かった」、「子供たちの学びにもつながっている」といった声が聞かれました。コロナ禍ではありますが、少しずつ学校と地域との連携のネットワークが広がってきており、とてもうれしく思いました。

令和4年度予算の議決がされれば、この2年間の課題であった、全小中学校でのコーディネーター設置が実現する予定です。今後、ますます各学校オリジナルの活動が増えてくるのではと、今からとても楽しみにしています。